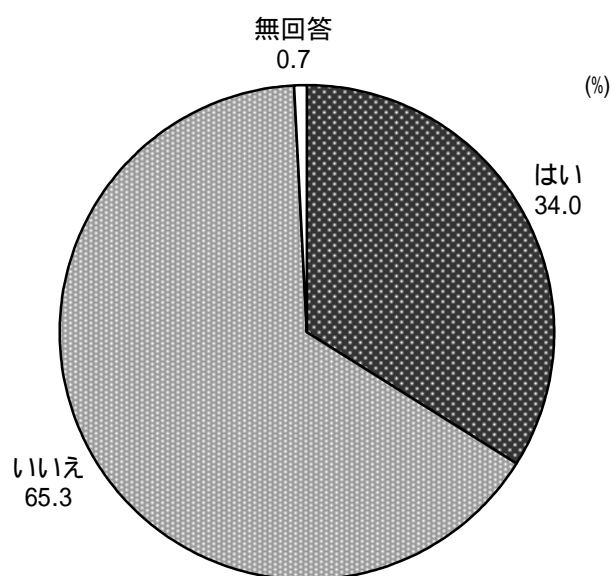


7. 災害への備え

(1) 非常持ち出し品の準備

問14 あなたのご家庭では、非常持ち出し品の準備をしていますか。(1つだけ)

図 1 4 - 1 回 答 者 数



【全体 = 976】

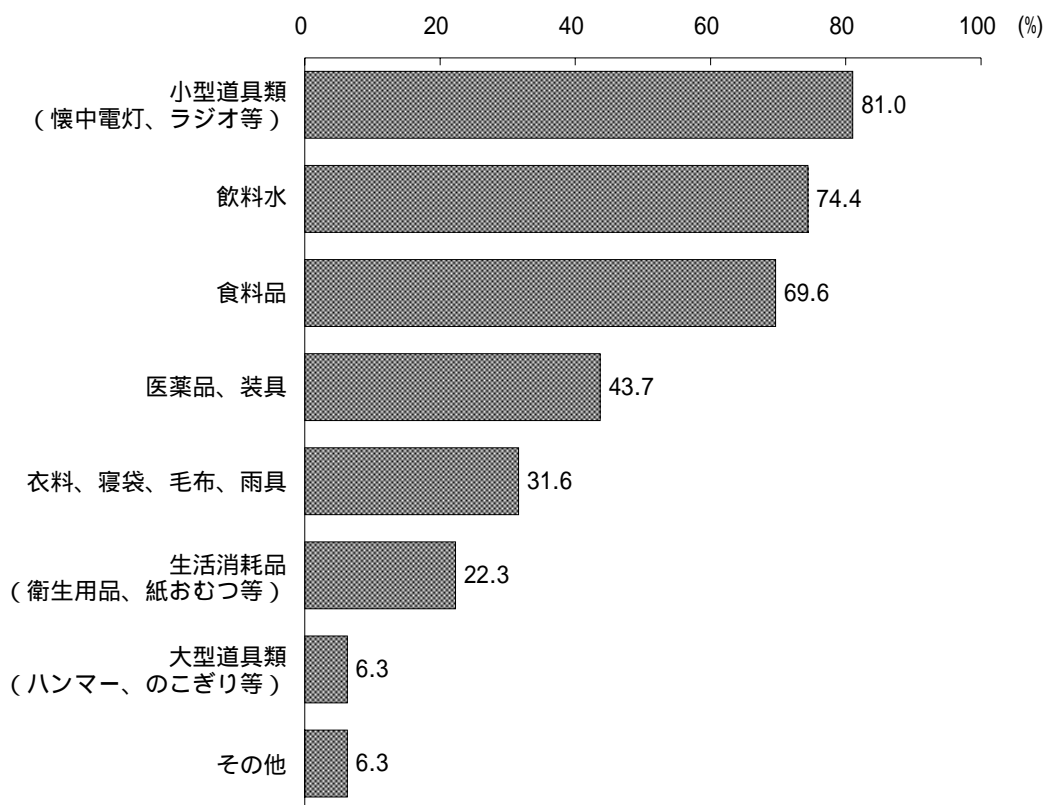
・非常持ち出し品の準備をしている率は、(34.0%)である。

(1) - 1 準備している非常持ち出し品

(問14で、1と答えた方に)

問14 - 1 あなたは、非常持ち出し品として何を準備していますか。(いくつでも)

図 1 4 - 2 回答者数



【n = 332】

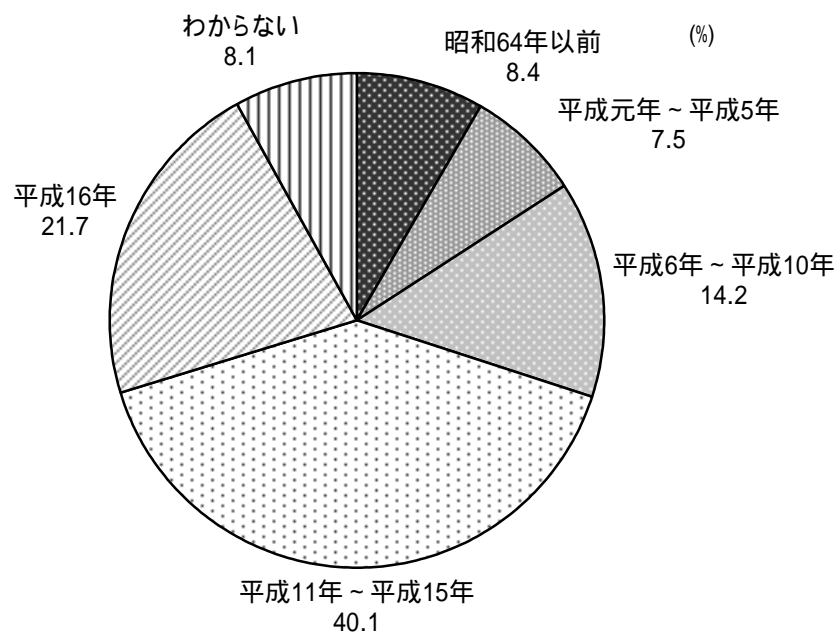
- ・非常持ち出し準備品中、多いのは順に「小型道具類」(81.1%)、「飲料水」(74.4%)、「食料品」(69.6%)である。
- ・大型道具類は、一桁台で最も低く(6.3%)である。

(1) - 2 非常持ち出し品の準備時期

(問14で、1と答えた方に)

問14 - 2 これらの非常持ち出し品は、いつごろ準備したものですか。(1つだけ)

図 1 4 - 3 回 答 者 数



【n = 332】

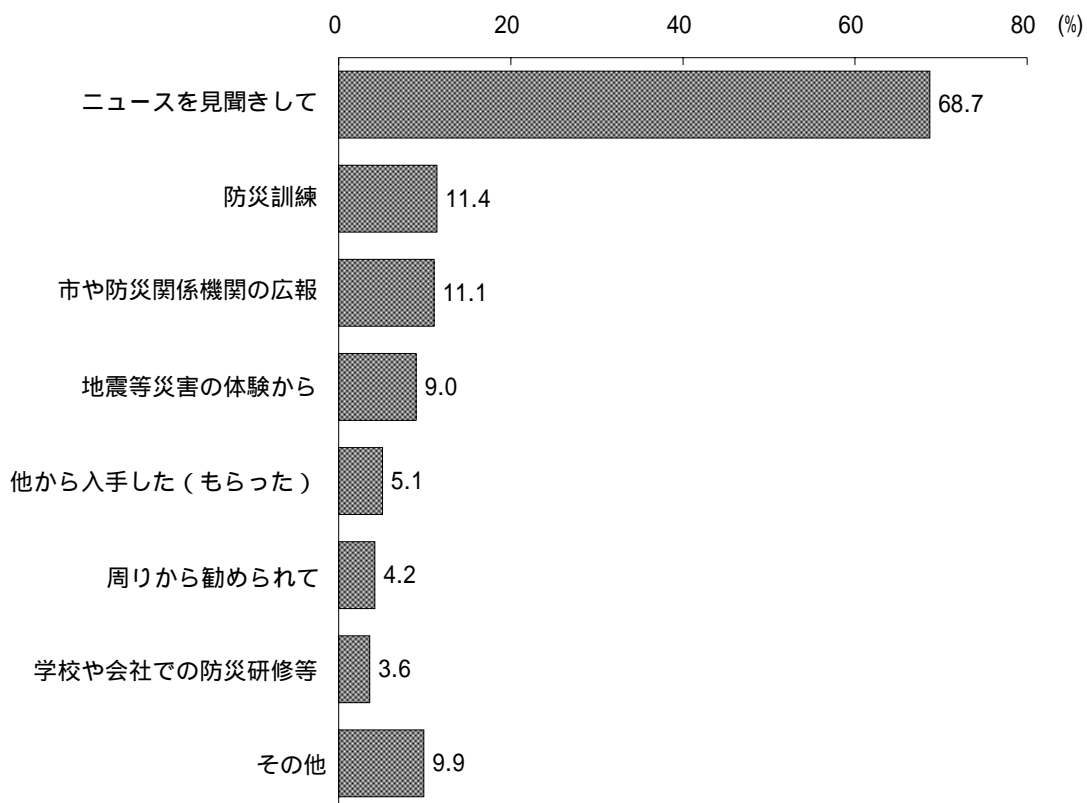
・非常持ち出し品の準備時期は、平成11年以降が(61.8%)を占める。

(1) - 3 非常持ち出し品を準備するようになったきっかけ

(問14で、1と答えた方に)

問14 - 3 あなたのご家庭で、非常持ち出し品を準備するようになったきっかけは何ですか。
(いくつでも)

図 14 - 4 回答者数



【n = 332】

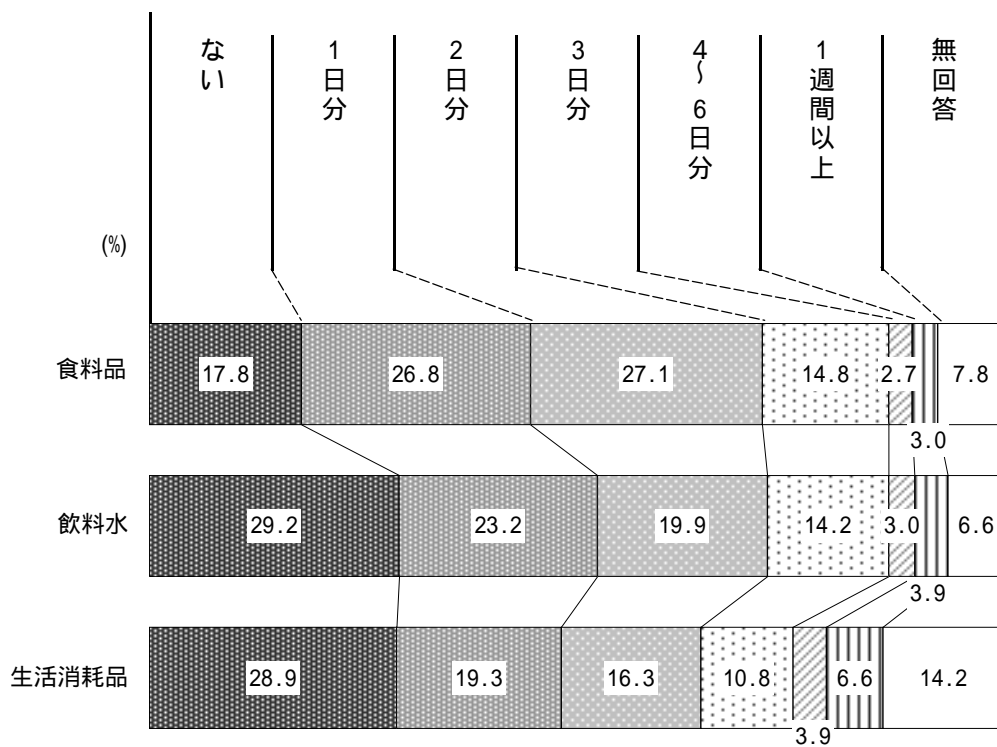
- ・非常持ち出し品を準備したきっかけは、「ニュースを見聞きして」が断然高く（68.7%）である。
- ・「防災訓練」、「市や防災関係機関の広報」は、参加したり接する機会などにもよるが、「ニュースを見聞きして」に比べて断然低く（10%）台である。

(1) - 4 非常持ち出し品の備蓄量

(問14で、1と答えた方に)

問14 - 4 あなたのご家庭では、非常持ち出し品をおよそ何日分準備していますか。
(各項目ごとにあてはまる番号を1つだけ)

図 14 - 5 回答者数



【n = 332】

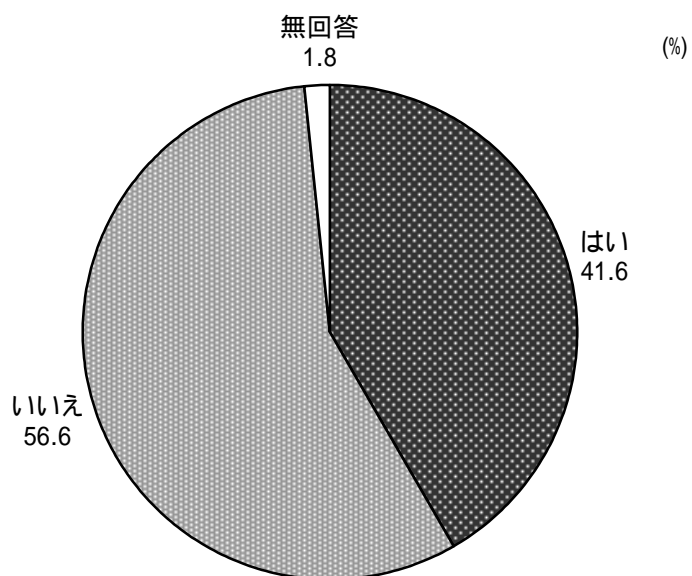
- ・非常持ち出し品の備蓄日数で「食料品」は、「飲料水」、「生活消耗品」に比べ「ない」が比較的少なく、「1日~2日分」が(53.9%)を占める。
- ・「飲料水」は、「ない」が(29.2%)と最も多く、次いで「1日分」が(23.2%)となっている。
- ・「生活消耗品」も同様の傾向で、「ない」が最も多く(28.9%)、「1日分」(19.3%)の順となっている。

(1) - 5 非常持ち出し品の定期的見直し

(問14で、1と答えた方に)

問14 - 5 あなたのご家庭では、非常持ち出し品の量や内容を定期的に見直していますか。
(1つだけ)

図 1 4 - 6 回 答 者 数



【n = 332】

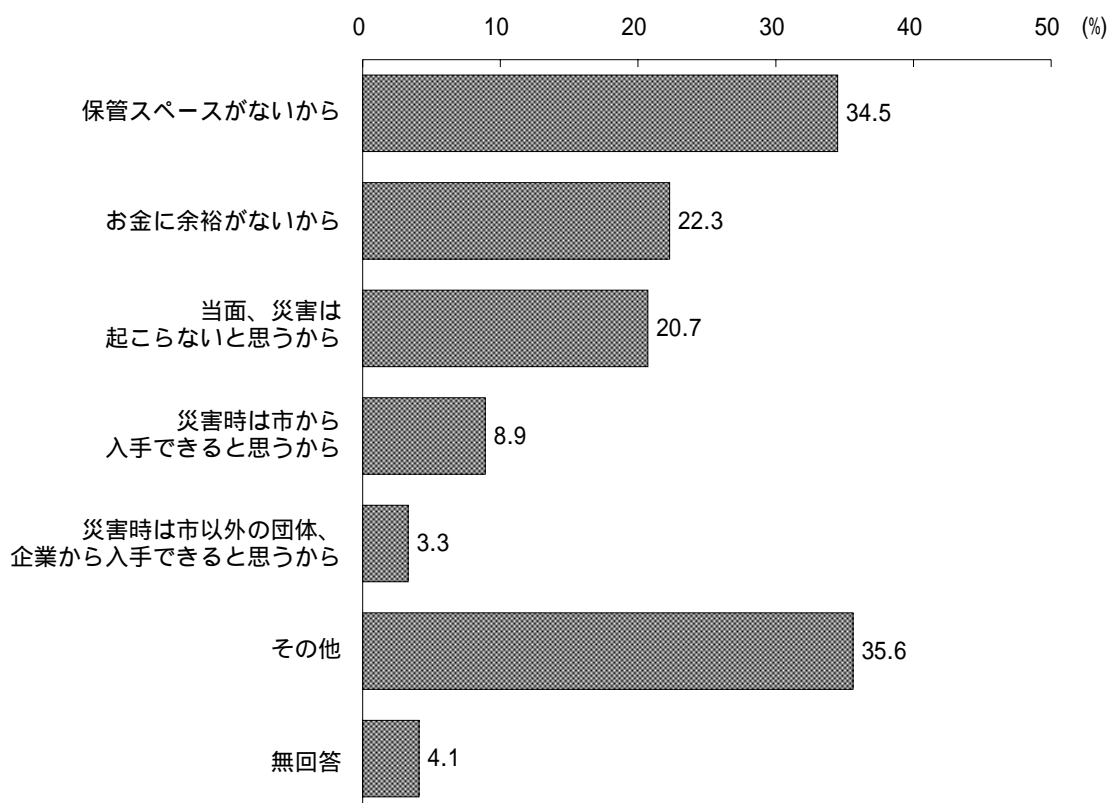
・非常持ち出し品を定期的に見直している率は、非常品持ち出し準備世帯の(41.6%)である。

(1) - 6 非常持ち出し品を準備しない理由

(問14で、2と答えた方に)

問14 - 6 あなたのご家庭で、非常持ち出し品を準備しない理由は何ですか。(いくつでも)

図 1 4 - 7 回答者数



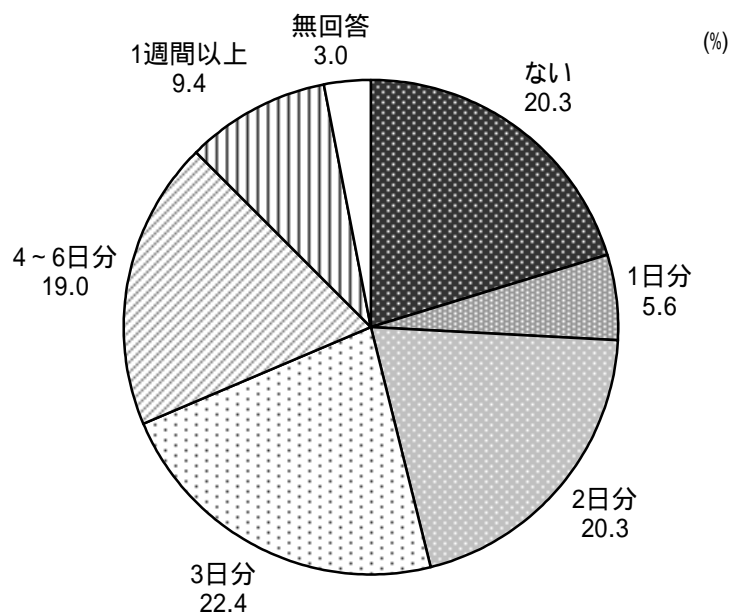
【n = 637】

- ・非常持ち出し品を準備していない人は、全体976人中(65.3%)で、637人である。
- ・準備していない理由は、637人中「保管スペースがないから」が(34.5%)で最も多い。
- ・なお、その他の内訳は『めんどくさい』や『時間がない』などである。

(2) 非常持ち出し品以外の買い置き食料

問15 あなたのご家庭では、非常持ち出し品以外で買い置きの食料品はおよそ何日分ありますか。
(1つだけ)

図 15 - 1 回答者数



【全体 = 976】

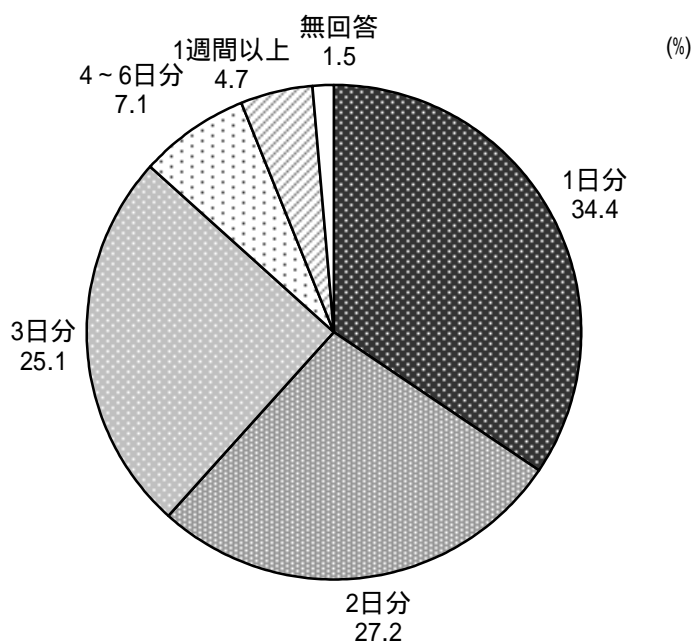
- ・非常持ち出し品以外の買い置き食料品を準備している人の率は(76.7% : 749人)で、準備していない人の率は(20.3% : 198人)、及び無回答(3.0% : 29人)である。
- ・非常持ち出し品以外で、食料品の買い置き率は「2~3日分」が(42.7%)。「4日~1週間以上」が(28.4%)である。

(2) - 1 電気、ガス、水道が止まっても食べられる食料

(問15で、2～6と答えた方に)

問15 - 1 食料品のうち、電気、ガス、水道が止まっても食べられる食料品は何日分ありますか。
(カセットコンロなどの使用は可。) (1つだけ)

図 15 - 2 回答者数



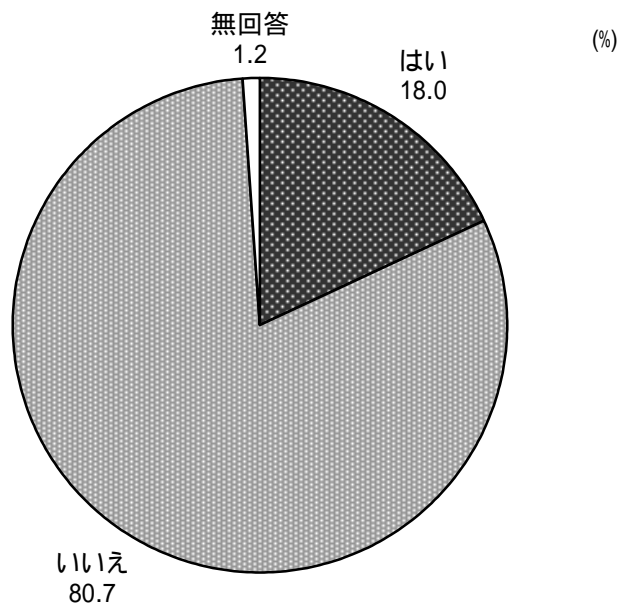
【n = 749】

- ・ライフラインが止まっても食べられる食料品の準備日数は、「1日分」が(34.4%)で最も多いが、およそ1～3日分で全体の(86.7%)を占めている。

(3) 「最低3日分程度の飲料水や食料品および生活必需品等の確保」の認知度

問16 市では、市民の方々に「最低3日分程度の飲料水や食料品および生活必需品等の確保に努めること」と定めていることをご存知ですか。 (1つだけ)

図 1 6 - 1 回 答 者 数



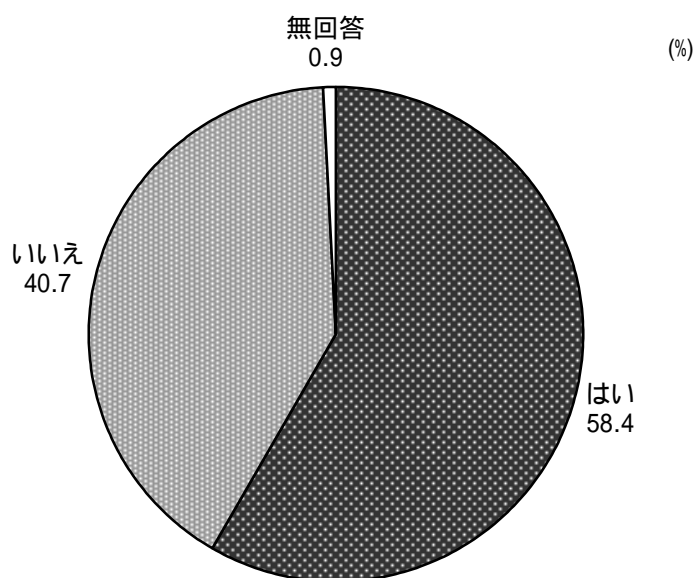
【全体 = 976】

・市民の認知度は (18.0%) で、非認知度が (80.7%) と殆ど知られていない。

(4) 家族内での災害についての話し合い

問17 あなたのご家族では、災害について話し合ったことがありますか。(1つだけ)

図 17 - 1 回答者数



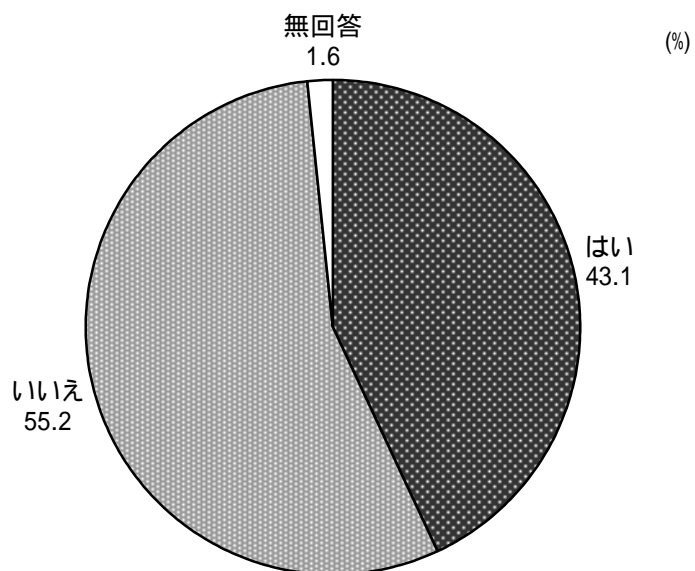
【全体 = 976】

・ 家族で災害について話し合った率は、(58.4%)である。

(5) 災害時に近所で助け合える環境

問18 あなたは、災害時、近所で助け合える環境にあると思いますか。(1つだけ)

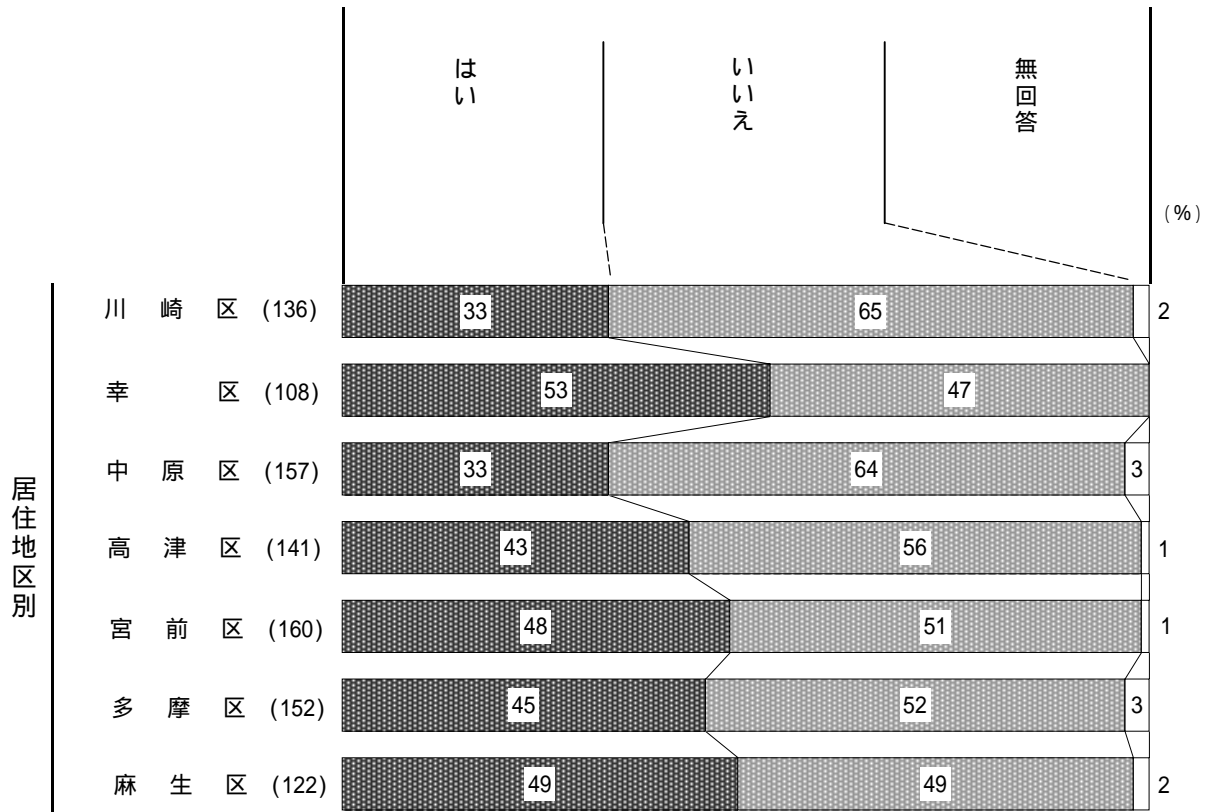
図 1 8 - 1 回 答 者 数



【全体 = 976】

・ 災害時、近所で助け合える率は (43.1%) である。

図 18 - 2 居住地区別

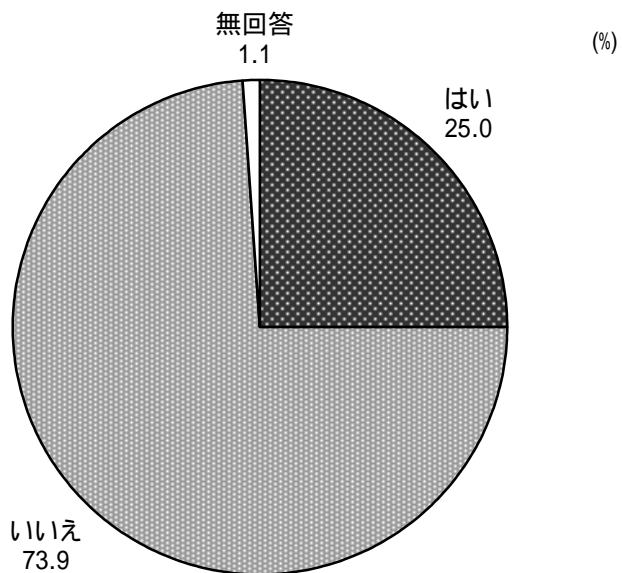


・居住区別では、幸区が（53%）で最も高く、川崎区と中原区の（33%）で最も低い。

(6) 町内会・自治会などの防災訓練への参加状況

問19 あなたは、町内会・自治会などの防災訓練に参加したことがありますか。(1つだけ)

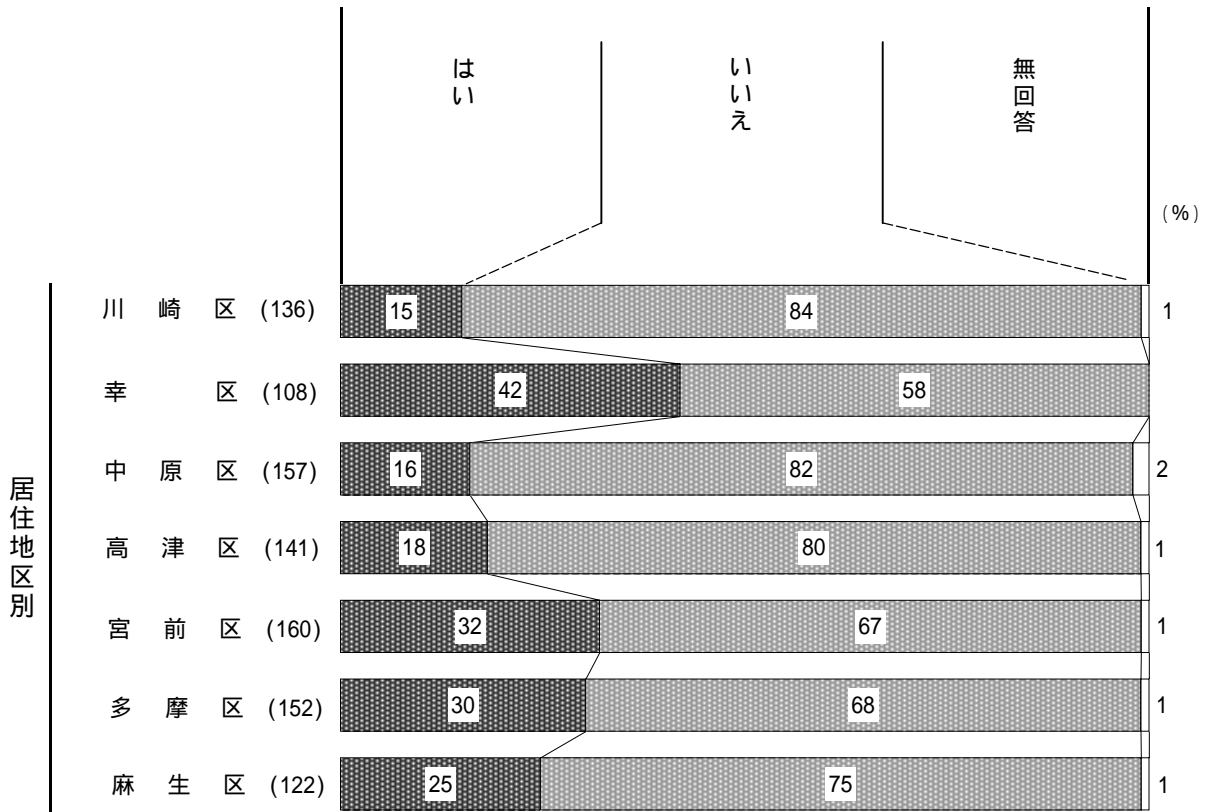
図 1 9 - 1 回 答 者 数



【全体 = 976】

・町内会、自治会などの防災訓練への参加率は(25.0%)で、非参加率は(73.9%)と殆ど参加していない。

図 19 - 2 居住地区別

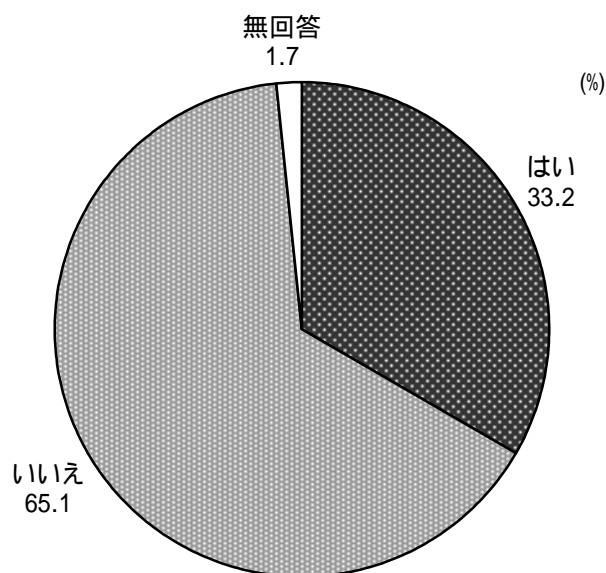


・居住区別では、同様に幸区が(42%)と最も高く、川崎区、中原区、高津区が(10%)台で低い。

(7) 市の予算で災害用の備蓄をしていることの認知度

問20 あなたは、市の予算で災害用の備蓄をしていることをご存知ですか。(1つだけ)

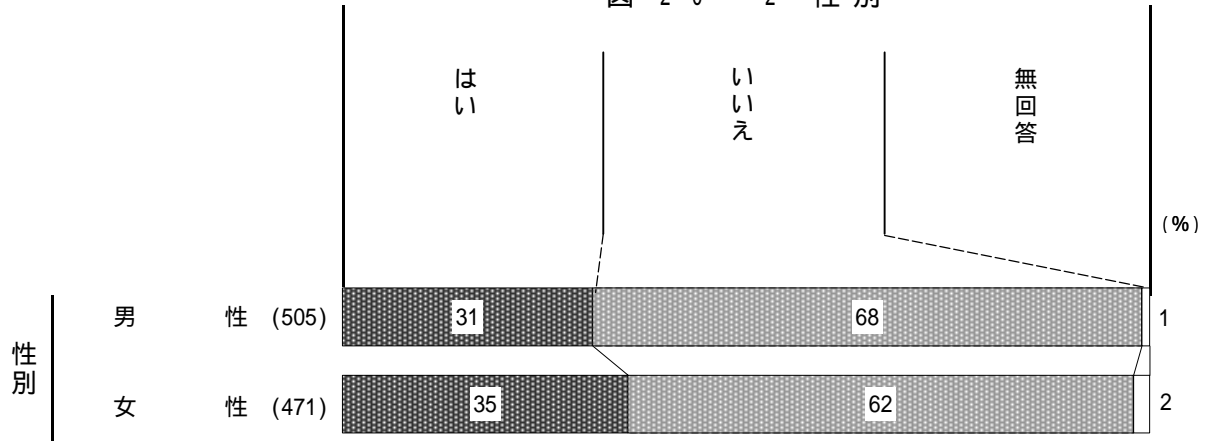
図 20 - 1 回答者数



【全体 = 976】

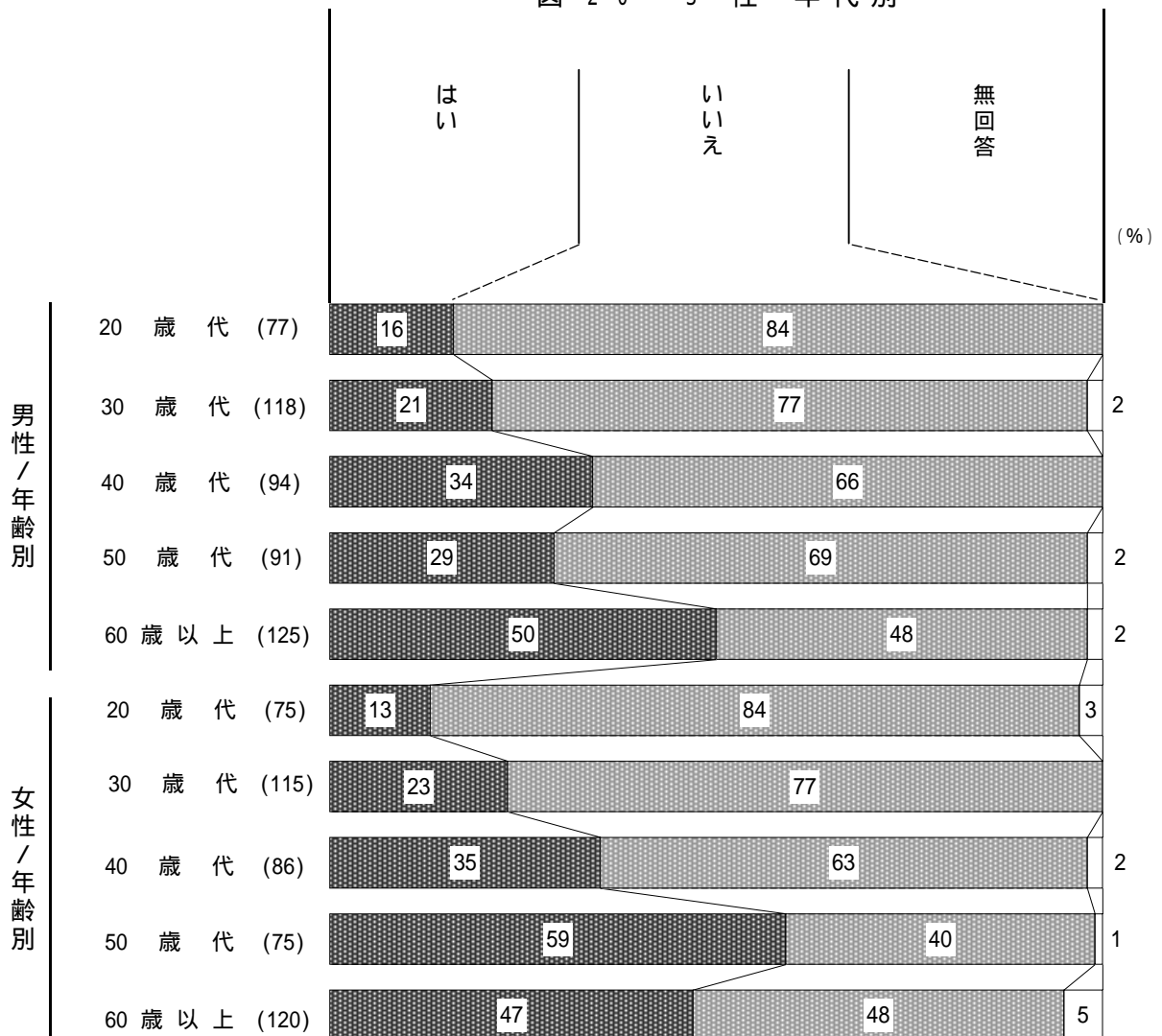
- ・市の予算による災害用の備蓄の認知度は(33.2%)、非認知度は(65.1%)で市民の3人中2人に知られていない状況である。

図 20 - 2 性別



・女性の方が（4%）男性より認知度が高い。

図 20 - 3 性・年代別



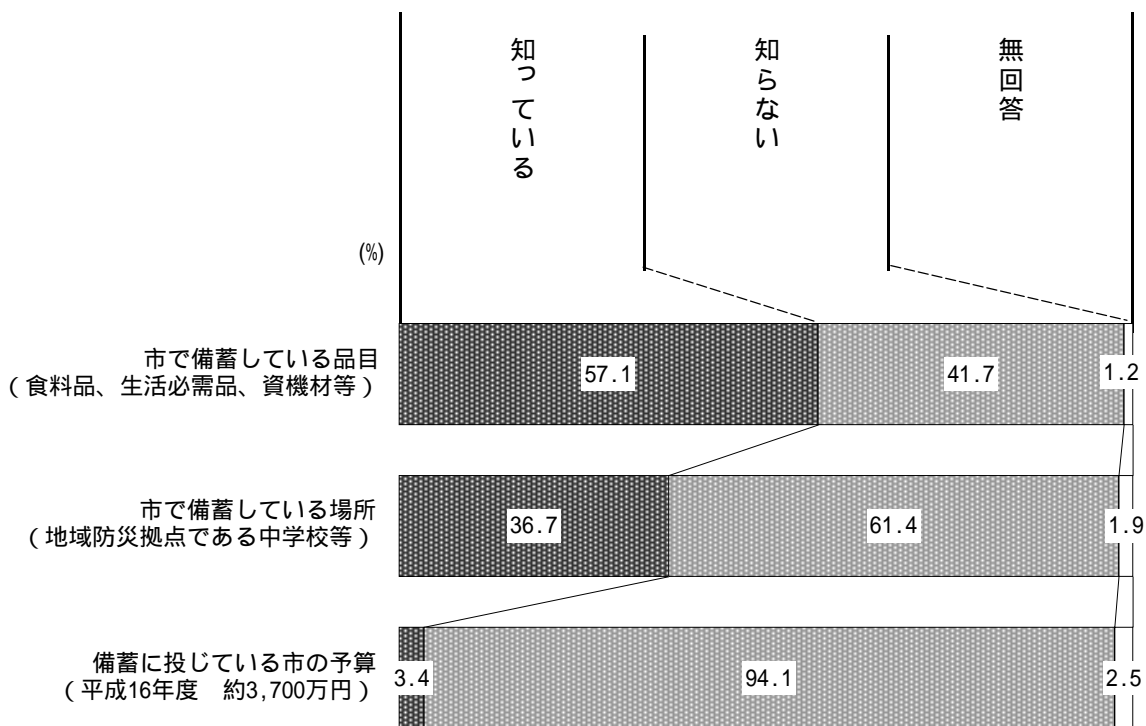
・年代別では、女性50歳代が（59%）で最も高く、男女とも20歳代が（10%）台で最も低い。

(7) - 1 市で備蓄している品目、場所、防災予算の認知度

(問20で、1と答えた方に)

問20 - 1 あなたは、次の内容をご存知ですか。(各項目ごとにあてはまる番号を1つだけ)

図 20 - 4 回答者数



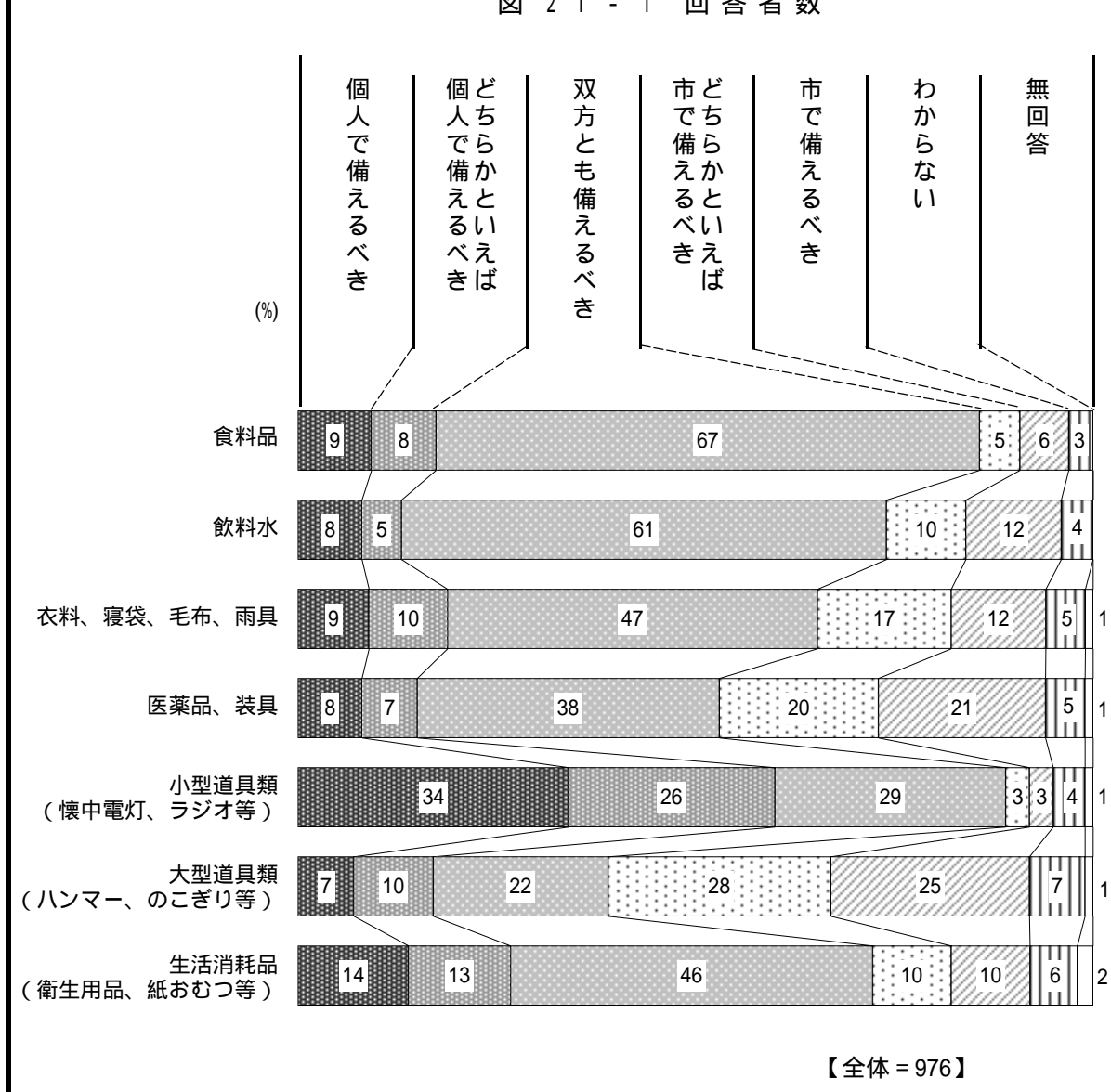
【全体 = 324】

- ・「市で備蓄している品目」の認知度は(57.1%)、「市で備蓄している場所」の認知度は(36.7%)である。
- ・「備蓄に投じている市の予算」の認知度は(3.4%)で、殆ど知られていない。

(8) 備蓄についての考え

問21 備蓄について、個人で備えるべきか、市で備えるべきか、あなたはどのようにお考えですか。
 (各項目ごとにあてはまる番号を1つだけ)

図 2 1 - 1 回答者数



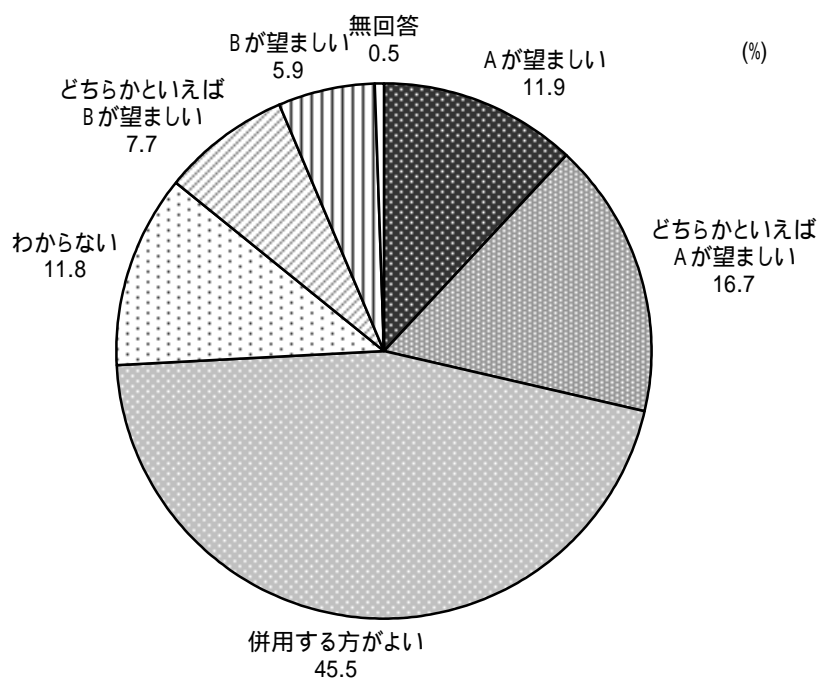
- ・個人と市の「双方とも備えるべき」が(60%)台で、最も割合が多いのが「食料品」の(67%)。次いで、「飲料水」(61%)である。それ以降は(40%)台ではあるが、「衣料、寝袋、毛布、雨具」(47%)、「生活消耗品」(46%)の順になっている。
- ・「衣料、寝袋、毛布、雨具」は、「双方」が中心となりながらも市で備える割合が多い。「生活消耗品」は、反対に個人で備える割合が多い。
- ・「医薬品、装具」は、双方が(38%)。市で備える計が(41%)で、市で備えるべきの方が多い。
- ・「小型道具類」は、個人で備えるべき計が(60%)で断然多い。
- ・「大型道具類」は、市で備えるべき(計)が(53%)で、市で備えるべきの傾向である。

(9) 非常持ち出し品の準備方法

問22 市が食料品や生活必需品などを準備する場合、A、Bと2通りの方法がありますが、あなたはどの方法が望ましいと思いますか。(1つだけ)

- A** : 市が独自に予算を投じて物資を災害用に備蓄する
 (予算はかかるが、市で管理し災害時専用とするため、安定性や即応性が見込まれる)
- B** : 企業や団体と協定を結び、市場に流通する物資の在庫を災害時に供給する協力体制をとる
 (予算は極めて少なくすむが、安定性や即応性が協定先による)

図 2 2 - 1 回答者数



【全体 = 976】

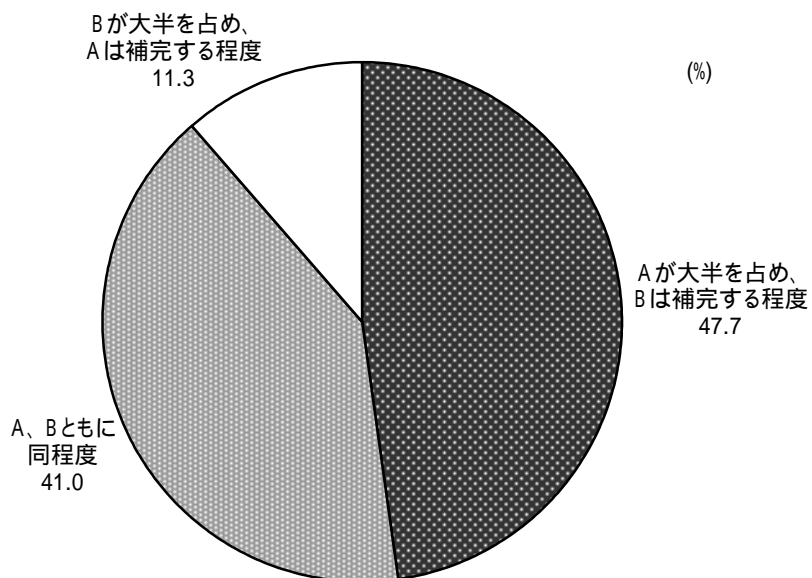
- ・ 「併用の方がよい」が最も多くを占め、(45.5%)である。次いで、「Aが望ましい」、「どちらかといえば、Aが望ましい」を合わせ(28.6%)。「Bが望ましい」、「どちらかといえばBが望ましい」を合わせ(13.6%)の順となっている。

(9) - 1 非常持ち出し品の準備を併用する場合

(問22で、3と答えた方に)

問22 - 1 併用する場合、AとBの割合はどのくらいがよいと思いますか。(1つだけ)

図 2 2 - 2 回答者数



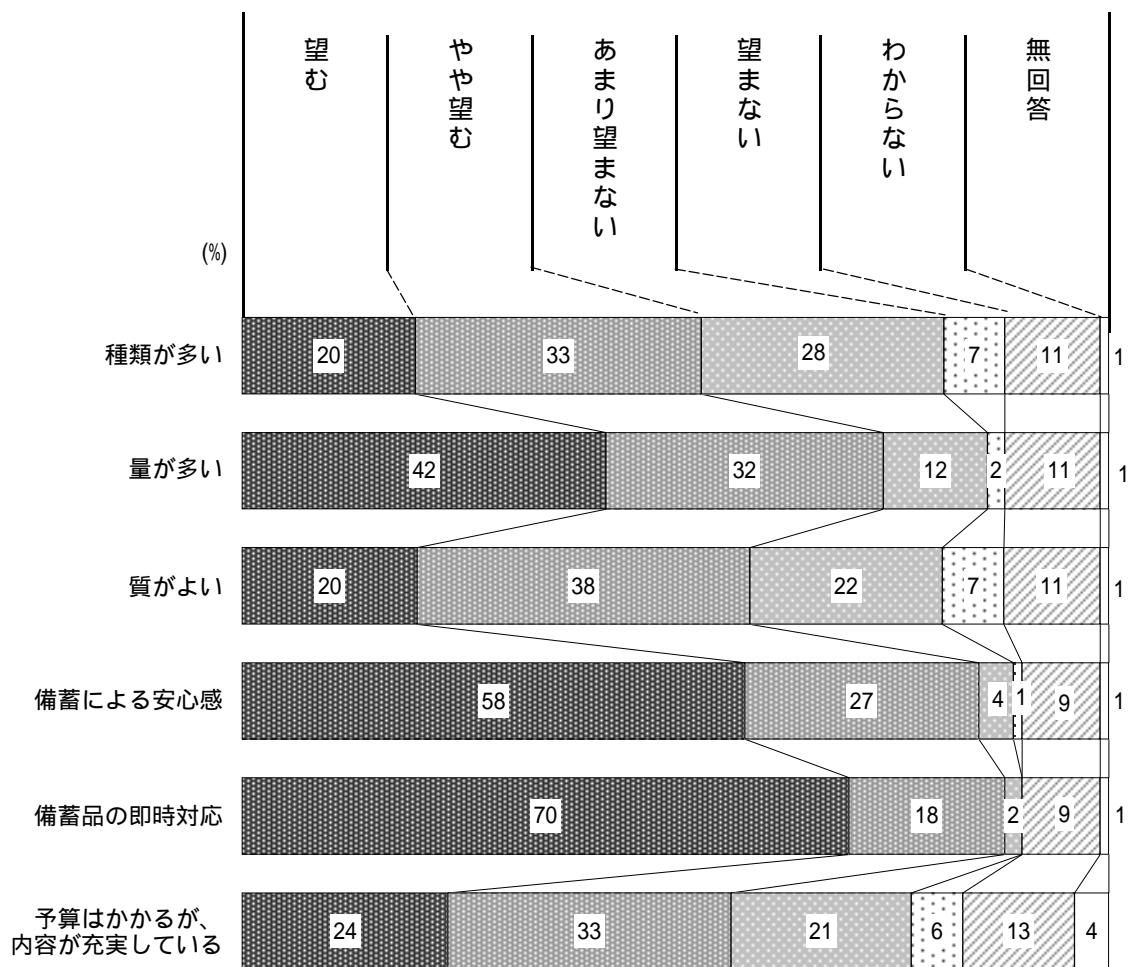
【n = 444】

- ・「併用する方がよい」の444人の内訳では、「Aが大半を占め、Bが補完する程度」(47.7%)、「A Bともに同程度」(41.0%)で、「Bが大半を占め、Aが補完する程度」は(11.3%)にすぎない。

(10) 市の災害用の備蓄品などに望むこと

問23 あなたが、市の災害用の備蓄品などに望むことは何ですか。
 (各項目ごとにあてはまる番号を1つだけ)

図 2 3 - 1 回答者数



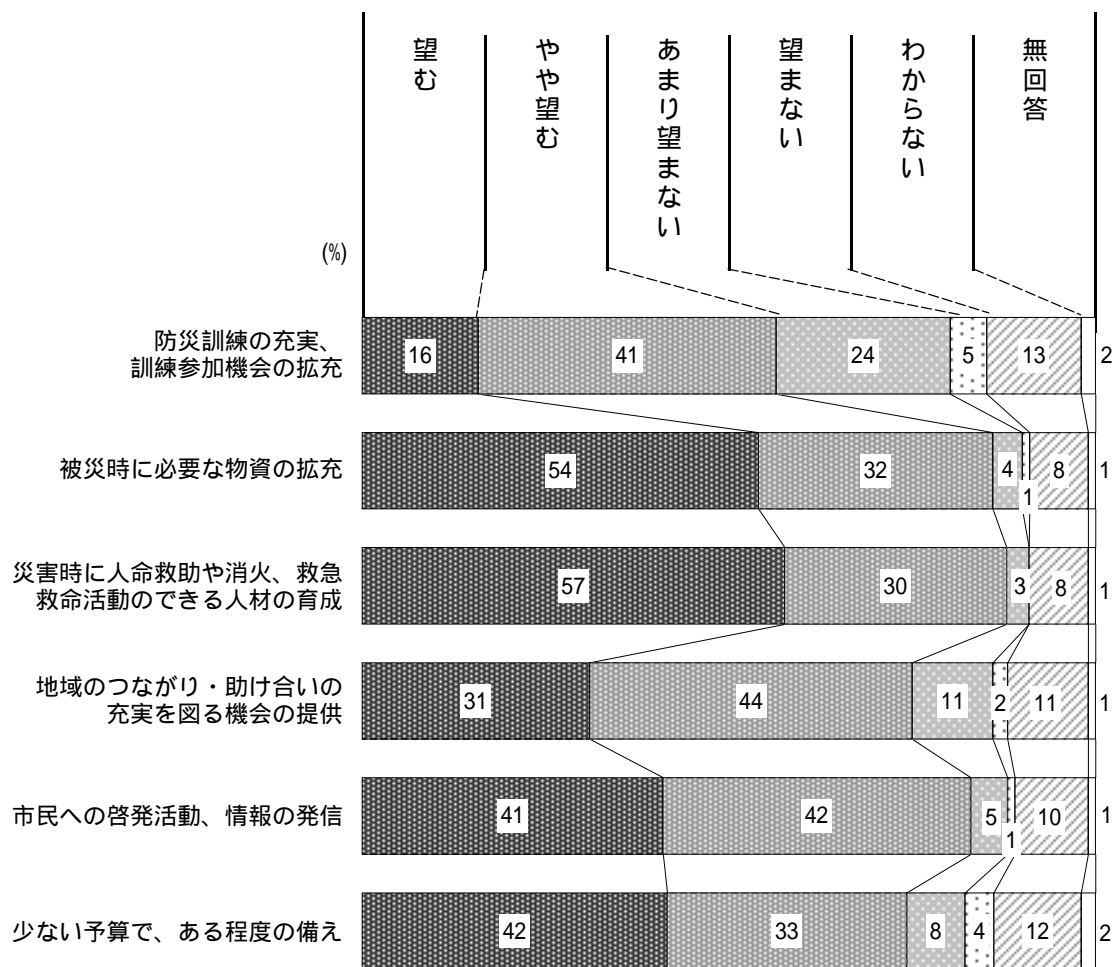
【全体 = 976】

- ・市の災害用の備蓄品に望むことの中で「備蓄品の即時対応」が（70％）で、他の項目に比べ断然高い。「やや望む」を合計すると、（90％）弱に達する。
- ・上記同様に、「備蓄による安心感」（85％）、「量が多い」（74％）の順になっている。
- ・「種類が多い」、「予算はかかるが、内容が充実している」は、（50％）台で比較的低い。

(1 1) 市で特に力を入れてほしい災害への備え

問24 あなたは災害への備えについて、市で特に力を入れてほしい支援は何ですか。
 (各項目ごとにあてはまる番号を1つだけ)

図 2 4 - 1 回答者数



【全体 = 976】

- ・ 災害への備えについて、市で特に力を入れてほしい支援のうち、「望む」率が(50%)台で、比較的高いのは、「災害時に人命救助や消火、救急救命活動のできる人材の育成」(57.3%)、次いで、「被災時に必要な物資の拡充」(54.3%)となっている。
- ・ 一方、「防災訓練の充実、訓練参加機会の拡充」は唯一(10%)台で最も低い。次いで、「地域のつながり・助け合いの充実を図る機会の提供」が比較的低い傾向となっている。